

平成 29 年度第 1 回岩手県地方独立行政法人評価委員会結果概要

1 開催日時

平成 29 年 8 月 9 日 13 時 15 分～14 時 15 分

2 開催場所

盛岡市駅西通 1-7-1

いわて県民情報交流センターアイーナ 7 階学習室 1

3 議事

- (1) 地方独立行政法人岩手県工業技術センター平成 28 事業年度業務実績に関する評価報告書（案）について
- (2) 地方独立行政法人岩手県工業技術センター平成 28 年度財務諸表に係る知事の承認について
- (3) 地方独立行政法人岩手県工業技術センターの剰余金の翌事業年度への繰越しに係る知事の承認について

4 出席者

- (1) 岩手県地方独立行政法人評価委員・専門委員
西崎滋委員（委員長）、室井麗子委員、下田栄行委員、恒川かおり委員、工藤昌代委員、加藤 碩一専門委員
- (2) 地方独立行政法人岩手県工業技術センター
木村卓也理事長、黒澤芳明副理事長ほか岩手県工業技術センター職員
- (3) 事務局
藤田芳男商工労働観光部ものづくり自動車産業振興室特命参事兼ものづくり産業振興課長ほか
総務部人事課、商工労働観光部商工企画室、商工労働観光部ものづくり自動車産業振興室職員

5 議事要旨

（表現は「ですます調」に変換しています。）

【事務局】

本日は、委員・専門委員の 6 名全員の皆様にご出席いただいておりますので、「地方独立行政法人法施行条例第 6 条第 2 項」に基づき、委員会を開催するために必要な定足数を満たしていることをご報告いたします。

【西崎委員長】

まず、本日の委員会の公開の取扱いについてお諮りします。

「岩手県地方独立行政法人評価委員会運営規程」に基づき、本日の会議の内容を公開で進めさせていただくことを提案しますが、よろしいでしょうか。

（一同異議なし）

【西崎委員長】

では、本日は公開ということで進めさせていただきます。

議事（1）

【西崎委員長】

それでは、議事（1）「地方独立行政法人岩手県工業技術センター平成 28 事業年度業務実績に関する評価報告書（案）について」事務局より説明願います。

【事務局】（資料 1～3 により説明）

【西崎委員長】

ありがとうございました。

まず、「震災復興への支援」についてですが、評価についてはこれでよろしいでしょうか。

（一同異議なし）

【西崎委員長】

次に、「技術相談」ですが、AA 評価と A 評価と分かれています。評点としては 4.50 となり、A 評価となっています。ご意見ございますか。

【加藤専門委員】

評価の作成手順に則ってこの評価は A になるのですが、今回各委員において AA に近い A とかといった場合には、その内容をコメント記載しており、こういった 4.50 だから A になるというのは、これはある意味 AA に近い A だと思います。各委員のコメントでは「AA に近い A」といった書き方はできるのですが、まとめコメントの部分でそれが反映されないということがあるので、まとめのコメントの欄にこれらの表現をいれてもいいのではないかと思います。

【下田委員】

3 ページの上の「依頼試験等」については、AA の評価であります。コメントはこの「技術相談」と変わらないような感じがあるので AA と A の差をつけるといったことをコメントでわかるようにするといったことができればと思います。

【西崎委員長】

AA のコメントには「高く」評価するというように「高く」をつけることで AA と A のコメントに差をつけるということもどうでしょうか。

【西崎委員長】

それでは、「技術相談」についてですが、これはコメント欄に「AA に近い A」という表現を加えることとし、「依頼試験等」については、まとめコメントの最初の文書の最後の部分に「高い満足度を得られていることを高く評価する」として、A と AA の違いを表現で表すということはいかがでしょうか。

（一同異議なし）

【西崎委員長】

「設備機器貸出」については、みなさん A で一致しているということでもよろしいでしょうか。

（一同異議なし）

【西崎委員長】

次の「戦略的な研究開発」についてですが、自己評価と同じBとなります。目標に対して達成できなかった事項があったということでB評価ということになります。

「県政課題等解決のための重点研究」、「企業ニーズに対応した共同研究及び受託研究」並びに「技術シーズ創生研究」については、委員の皆さんで評価は一致しているところです。

(一同異議なし)

【西崎委員長】

「研究成果の市場化促進」についても、委員皆さんで評価は一致しているところであります。何かご意見ありますでしょうか。

【加藤専門委員】

この項目は、なかなか単年度では評価しにくいところです。

さきほどの「戦略的な研究開発」でB評価となったところについても思ったのですが、来年評価するときに前年度B評価であったものがどのように改善されたのか、または悪化したのか、そういう流れがわかる評価を我々も心掛けなければなりません、そういったことを、あらためてリマインドしてもらえるとありがたいと思います。

【西崎委員長】

そうですね、評価に際し、今後は経年変化がわかるようにデータを用意していただくということをお願いします。評価については、このとおりでよろしいでしょうか。

(一同異議なし)

【西崎委員長】

「新産業創出及び新分野進出への支援」及び「ものづくり成長分野への進出支援」についてですが、このとおりでよろしいでしょうか。

(一同異議なし)

【西崎委員長】

「食産業及び伝統産業分野への支援」についてですが、工藤委員がAA評価となっていますがA評価ということでよろしいでしょうか。

【工藤委員】

私も少し工業技術センターの取組に関与していたのですが、かなり積極的な活動をされていたと思いAAとしました。

【西崎委員長】

私もコメントにおいては「AAに近いA評価」としておりましたが、この項目はA評価ということでよろしいでしょうか。

(一同異議なし)

【西崎委員長】

「ものづくり革新への対応」についても皆さんA評価ということでよろしいでしょうか。

(一同異議なし)

【西崎委員長】

「海外へのビジネス展開支援」についてですが、AA評価とA評価が分かれています。室井委員から「連携するのがなぜフィンランドのデザイナーなのか」という質問があります。これについて工業技術センターから回答をお願いします。

【工業技術センター 小浜理事兼地域産業技術統括部長】

フィンランドとの連携についてですが、平成9年から平成15年にかけてフィンランドのデザイナーとの間で「北国デザインワークショップ」という事業において、既にフィンランドとの間に連携の実績がありました。具体的にはユニバーサルデザインに係る技術指導を受けながら、当時は国内生産向けの活動を行っていましたが、今回は海外展開を行うという目的において、これまでの経緯からフィンランドを対象にした事業を行ったものです。

【西崎委員長】

今後の展開に期待したいと思います。評価としてはAということによろしいでしょうか。
(一同異議なし)

【西崎委員長】

「連携の推進」については、評価が一致しているとおりA評価ということによろしいでしょうか。
(一同異議なし)

【西崎委員長】

「企業人材の技術高度化支援」について、B評価となっています。室井委員から「育成の対象とされ得る企業技術者の現在の水準等々のアセスメントは実施されたか」、「技術者の現在の水準を踏まえた上で、技術向上が着実に達成できるような中長期的・継続的な支援を構築する必要があるのではないか」という質問、指摘がありますが、その辺工業技術センターとしてどのような対応を考えていますか。

【工業技術センター 富手企画支援部長】

昨年度より当センターにおいて、A評価となる基準の受講者等満足度を80%から90%にあげました。それまではセミナーを担当する研究員にセミナーの実施内容が任されていたが、80%から90%に満足度をあげたところで色々と問題が見えてきました。セミナーの受講者アンケートの解析を行う中で、満足度が高いセミナーと低いセミナーの差は何か分析を行い、満足度が低いセミナーを高くするように対策を考えていきたいと思っています。

【西崎委員長】

加藤専門委員からも、「過去の講習会事例などで差し支えないものはHPにアップし、情報入手が出来るように改善したらどうか」という指摘がありますが、これについてはどう考えていますか。

【工業技術センター 富手企画支援部長】

これについても、指摘のとおり対応できるようにしていきたいと考えています。

【加藤専門委員】

室井委員と意見が同じ趣旨ですが、ある講座が実施されるときに、受ける側がもっと高度なことを教えてもらいたいのに、初歩的なことであつたり、逆に一から教えてもらいたいのに、高度なことをやった

りと齟齬があると、満足度に直接反映されるので、講座の難易度が事前にわかるような工夫など改善されるとよいと思います。

【西崎委員長】

評価及びコメントについてはこの内容でよろしいでしょうか。

(一同異議なし)

【西崎委員長】

「次代を担う産業人材の育成」については、評価はみなさん一致していますが、工業技術センターでは小中学生等の若い世代の育成について、現在どのような取り組みがなされていますか。

【工業技術センター 富手企画支援部長】

当センターにおける大学生以下を対象にした取組としては、一般公開やインターンシップなどを中心として行っており、また他の機関が主催するイベントなどにおいても出展しています。東北における他の公設試験場においても、だいたい同じような規模で行われていると思います。

次代を担う産業人材の育成が、すぐに産業振興につながるものではない中で、どのくらい力を入れるのかというのは悩みながら実施している状況です。

【西崎委員長】

それでは、この項目A評価ということでもよろしいですね。

(一同異議なし)

【西崎委員長】

「技術移転」、「知的財産の取得・保護」については、みなさん評価が一致しておりこれでよろしいでしょうか。

(一同異議なし)

【西崎委員長】

情報の発信については、加藤専門委員から「マスコミ掲載実績やプレスリリース交換などは前年との比較が知りたい。広報資料は、他県の公設試との交換寄贈しているのか」というご意見がありましたが、これについてはどのような対応をされていますか。

【工業技術センター 富手企画支援部長】

マスコミ掲載、プレスリリース実績については、マスコミ掲載がH27が63件でH28も63件。プレスリリース数はH27が36件でH28は35件と、ほぼ同じような状況です。

印刷物の交換寄贈については、センターから各公設試に対して送付していますが、全部の公設試から提供があるわけではありません。他公設試等から印刷物等の送付があった場合には部長以上の職員で回覧し、どこにどういった設備が入っており、どういった事業を行っているか等を業務の参考としています。

【西崎委員長】

プレスリリースというのは、何か特別なことがあった時に行っているのですか、それとも定期的なものでしょうか。

【工業技術センター 富手企画支援部長】

定期的なものではないので、プレスリリースのネタを探しながら、なるべく情報提供できるよう努めてまいりたいと考えています。

【西崎委員長】

それでは、この項目もA評価でよろしいでしょうか。

(一同異議なし)

【西崎委員長】

業務運営の改善及び効率化に関する事項の「組織運営の改善」、「事務等の効率化・合理化」、「職員の意欲向上と能力開発」については、評価が一致しており、このとおりA評価でよろしいでしょうか。

(一同異議なし)

【西崎委員長】

「環境・安全衛生マネジメント及び職場環境の充実」についてですが、加藤専門委員から「環境監査を実施できなかった理由は何か」という質問があります。これは何故だったのでしょうか。

【工業技術センター 古里総務部長】

担当者が環境監査は要綱等の改正後に行うべきものと勘違いしていたこと等、事務手続きに遅れが生じ、平成28年度内に実施できませんでした。

【西崎委員長】

監査自体は今年度実施したと伺っておりますが。

【工業技術センター 古里総務部長】

今年度速やかに5月において実施したところです。

【加藤専門委員】

28年度の評価としては、監査自体実施できていなかったことであり、そのことについてはB評価ということでやむを得ないことですが、それをきちんと今年度フォローしたということであればそれで結構だと思います。

【西崎委員長】

それでは、この「環境・安全衛生マネジメント及び職場環境の充実」については、このとおりでよろしいでしょうか。

(一同異議なし)

【西崎委員長】

それから、「コンプライアンスの強化及び社会貢献活動の実施」については、評価が一致しておりますのでこのとおりでよろしいでしょうか。

(一同異議なし)

【西崎委員長】

次の『財務内容の改善に関する事項』及び『その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項』についてですが、各評価項目においてもこのとおりのA評価ということによろしいでしょうか。

(一同異議なし)

【西崎委員長】

総合評価についても、各中項目ともA評価であり、このとおり確認したいと思います。

総合評価コメントですが、この内容によろしいですか。

(一同異議なし)

それでは、大きな変更もありませんでしたので、事務局で今回の結果に基づき、何か修正等があり最終的な評価報告書とする際には、委員長にお任せいただきたいと思います。

それから法人には意見申し立ての機会を付与することとしており、意見申し立てがあった場合には、別途事務局から対応が求められることがあることを申し添えておきます。

また、法人から修正意見等の意見申し立てがあった場合の対応については委員長に一任願います。

各委員から何かございますか。

(一同異議なし)

それでは、議事の(1)を終了いたします。

議事(2)

【西崎委員長】

次に、議事(2)「地方独立行政法人岩手県工業技術センター平成28年度財務諸表に係る知事の承認について」に移ります。事務局より説明願います。

【事務局】

(資料4により説明)

【西崎委員長】

ただいま事務局から議事(2)についての説明がありましたが、質問、意見がありましたらお願いします。

(特になし)

それでは、議事(2)については委員会としての意見はなしとしてよろしいでしょうか。

(一同異議なし)

それでは議事の(2)を終了します。

議事（3）

【西崎委員長】

次に、議事（3）「地方独立行政法人岩手県工業技術センター剰余金の翌事業年度への繰越しに係る知事の承認について」に移ります。事務局より説明願います。

【事務局】

（資料5により説明）

【西崎委員長】

ありがとうございました。

この件について、質問・意見ありますでしょうか。

【下田委員】

基本的な質問ですが、第3期の取崩額である3200万円は、どのような用途に使われたのでしょうか。

【事務局】

剰余金のうち繰り越したものについては、翌事業年度以降に企業支援、施設整備の改善等に使えることとなっていますが、具体的には、施設整備の修繕費、公用車の更新、コーディネーターの人件費等になっています。

【下田委員】

取崩額は、目的積立金として使う部分と平成28年度の予算として使う部分とに分けられるのですか。

【事務局】

平成29年3月31日時点での利益剰余金のうちの目的積立金が1億2600万円となっております。これは、平成27年度末から繰り越されていた額が1億5800万円あり、この額から平成28年度中に3200万円取り崩されて、この1億2600万円という金額となっております。

一方で、昨年度の1年間で生じた当期未処分利益は、4800万円となっており、そのうち人件費相当分を除いた4300万円分を剰余金として平成29年度に繰り越そうとすることについて知事の承認をしようとするものであります。

【西崎委員長】

この剰余金の中には、積立金というのも入っているのでしょうか。

【事務局】

昨年度については、平成27年度が第2期中期目標期間の最後であったので、その5年間の期間の人件費相当額は昨年度承認いただいて、県に納付していただいております。

したがって、この剰余金には積立金がゼロで、今時点では目的積立金だけが入っているということになります。

【西崎委員長】

一点確認させてください。平成 28 年度資金計画（資料 2 P35）においては、目的積立金取崩額収入が 4300 万円となっていますが、この金額と資料 5 でいう 3200 万円の取崩し額との差というのは何でしょうか。

【工業技術センター 黒澤副理事長】

これはあくまでも、予算段階での計画となっております。予算策定段階で 4300 万円の取り崩しをしようと計画を立てていたものです。

【西崎委員長】

平成 28 年度の収支実績（資料 2 P34）においては、目的積立金取崩額として 2000 万円となっておりますが、この金額はどの部分に対応されるのでしょうか。

【工業技術センター 木村理事長】

この金額は、損益計算書上の目的積立金取崩額です。つまり、全体の取崩額は 3200 万円ですが、その内訳として、費用発生に対応する部分が 2000 万円で、固定資産の取得に充てた部分が 1200 万円ということになります。

【西崎委員長】

わかりました。

それでは、この議題（3）についても委員会としての意見はなしということでよろしいでしょうか。

（一同異議なし）

それでは、以上をもって議事を終了します。本日はありがとうございました。